

Step to the future

地域でつながるワカモノ×NPO
インターンシッププログラム 2023
活動報告書



2023年度は11名のワカモノがNPO・市民活動団体で
インターン活動を行いました。

未知の世界へ飛び出し、
様々な経験を経て成長したワカモノの様子をご覧ください。



— index —

- 1 ……はじめに
- 2 ……ワカモノ一覧
- 3-4 ……プログラム紹介
- 5-22 ……ワカモノ紹介／クロストーク
- 23-24 ……1年の流れ
- 25-26 ……アンケート結果
- 27-28 ……OBOGアンケート
- 29 ……ワカモノ×NPOの効果と未来
- 30 ……未来のワカモノへ

ワカモノの似顔絵イラストと、それぞれの
マイブームを紹介しています。詳しい活動の様子は
7ページ目から掲載しています。



西口 芽吹

お散歩（考えを整理
したり気分転換をす
る）



野元 小暖

洋楽を聞くこと！



坂本 みのり

ラジオを聴くこと



桑原 果那

電車に乗って景色を
見ること



大谷 清心郎

部活動をかむしゃら
にやる。フォート
ナイトをやる。



中村 瑠璃

漫画を描いてみたら
意外と楽しくて、
ハマっています。



小沼 彩音

カヌレを食べること



藤田 真人

ツーリング（バイク
と自然の写真を撮りに）



森田 美都

マイナーなゲームを
探して遊ぶ、散歩、
筋トレ（したい）



矢倉 壮

ピアノを弾くことと
写真を撮ること



前島 歩花

ナンプレを遊ぶ

プログラム紹介

このプログラムでは、高校生～大学院生までのワカモノが約半年間、地域のNPOでインターン生として活動します。2014年度より実施し、プログラム10年目となる2023年度は、11名のワカモノと10のNPO・市民活動団体が参加しました。

－目的－

本プログラムでは下記の3つを目的にしています。

- ① ワカモノが自ら考え、自ら学び、自分の道を選ぶことができる力を身に付けること
- ② NPO・市民活動団体の組織基盤を強化すること
- ③ プログラムを他地域に展開すること

－プログラム概要－

プログラム概要

対象：高校生～大学院生（概ね30歳未満）
 期間：2023年7月16日（日）～2024年2月29日（木）
 費用：活動にかかる交通費や食費等は自己負担
 ※活動1時間あたり400円の活動奨励金があります。
 活動先：神奈川県内で活動するNPO・市民活動団体

－NPOとは？－

NPOとは「Non-Profit Organization」の略称で、日本語では「民間の非営利組織」と表現します。株式会社等の「営利」を目的とする組織とは異なり、収益を社会課題を解決するための事業に活用して取り組む組織です。

社会の多様化したニーズに応え、社会や地域の課題解決に向け、様々な分野（文化、環境、教育、まちづくり、国際、福祉等）で活動をしています。また、NPOは「産学官民」の「民」の部分を担当する存在として地域でも注目されています。最近では「協働」という新しい形のパートナーシップで、NPOをはじめ、企業、学校、行政等と連携する事例が増えています。また、災害などの際にそれぞれの分野で力を発揮するボランティアをコーディネートする役割も、地域のNPOには求められています。

－冊子コンセプト－

今年度の活動報告書のコンセプトは「宇宙」です。

ワカモノは調査隊員（インターン生）として、無限に広がる宇宙（未知の世界）から、それぞれの惑星（活動先団体）で調査（活動）するという意味が込められています。宇宙のように、みなさんの可能性は無限大に広がっています。

本活動報告書からワカモノの活動を知り、あなたも未知の世界に飛び込んでみませんか？

－コースについて－

ワカモノコース

60～100h
（定例会等の時間を含む）

高校生コース

50～80h
（定例会等の時間を含む）

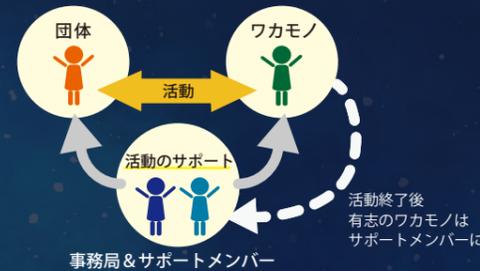
ワカモノコースと高校生コースの2つあります。高校生コースは活動時間を短縮したことで、活動と学業との調整をしやすくしています。また、継続して活動に取り組みやすいよう、活動1時間あたり400円の助成を行います。

－マッチングについて－



ワカモノの活動先は事務局との個別面談を通してマッチングします。ワカモノの持つ興味関心、どのような活動が向いているのかなどをヒアリングした上で決めていきます。

－運営体制－



ワカモノと団体が活動しやすいよう、事務局及びサポートメンバー（OBOGの有志）が活動のサポートをします。サポートメンバーコーナーをご覧ください。

－成果発表会の企画－



活動先団体の方々や事務局、外部の方々を招き、インターンシップ活動で得たことや成長したことなどを発表します。企画から当日運営までワカモノが主体となって行います。

サポートメンバー紹介

本プログラムのワカモノOBOGで構成され、事務局とともにプログラムを作っているサポートメンバー（通称「サポメン」）を紹介します！



大谷 脩太郎

メディアを駆使して困り事を解決！マイスターシュータロー



小島 奈々

iPadを使えばデザインからイラストまでイラレ使いおじな



金子 知史

休みと聞けば即旅路頼りになる駅弁マスター 餃子パンかねこ



酒井 彩良

日本のオタ活では飽き足らずアジアに手を伸ばした ジークフリート・サラ



神藤 夏美

癒しの笑顔の裏に秘められた向上心と熱い闘志。サポメンのオアシス なっちゃん



中村 渚

ふわっとおだやか、実はしたたか、なんでもおまかせ 渚商店



山本 千晴

地元藤沢を愛するあまりに勢よく飛び出して隣町で働き始めました ちはる女将



森田 哲平

企画や制作と大活躍、イケボ高校生 てつこ



相原 美月

永遠の新生児 おみつ

ワカモノ紹介

次のページからは、NPOで約半年間、インターン生として活動したワカモノを紹介しています。

活動の中で感じたワカモノの声をクロストークとしてご紹介！初めて体験したNPOはどのようなところだったのか、彼らが見て体験したことをここに記します。



自分の興味関心や進みたい将来に気づいた

にしぐち いぶき
西口 芽吹

学年：湘南一ツ星高等学院2年生

主な活動：イベント企画、運営サポート、撮影、団体利用者との交流

インターン活動に参加したきっかけ

学校で開催されたインターンシッププログラムの説明会に事務局の方々が来てくださり、それに参加して詳しい話を聞きました。学校やアルバイト以外の新しいコミュニティに身を置ける貴重な機会に魅力を感じ、それによって自身が成長出来ると確信して参加を決めました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

新しい発想や方法で地域の人々の願いを形にし、地域発展に尽力している方々と沢山出会いました。共に活動していく中で、私も将来人々が地域で心地よく生きていく為の環境づくりに貢献したいと考えようになりました。日本だけでなく海外の地域発展についても学びを深め、自分ならではの地域貢献をしたいです。

印象に残っているエピソード

自分が企画し、宣伝から運営まで担ったイベントが印象に残っています。物凄い仕事量でしたが、活動を通して仲良くなった方々が協力してくれたおかげで、無事に開催できました。自分の力だけでなく、人を頼ったり助け合う事も大切だと知りました。また、参加した人々の反応を直接目にすることが出来たのも嬉しかったです。多くの温かい言葉をいただき、それが活動の原動力となりました。



受入団体：認定NPO法人まちづくりスポット茅ヶ崎

担当者：秦野 拓也さん

茅ヶ崎市南西部エリアのにぎわいとコミュニティ形成に向けて、地域資源を活かし、地域や世代をつなぐ交流の場や機会を提供中。2015年4月から交流スペース「まちスポ茅ヶ崎」の運営を始め、多世代の交流、食を通じたまちづくり、魅力ある景観の維持・継承などの活動に取り組んでいます。



色々な生き方を発見できた

のもと こはる
野元 小暖

学年：高校1年生

主な活動：コラム作成、オンラインの交流イベントの企画・司会・進行

インターン活動に参加したきっかけ

中学3年生で行ったニュージーランド留学で、自分と同じ年代の子が地域の中で役割を持ち、自発的に行動している姿が印象的でした。私も日本に帰ったら何か新しいこと、特に地域の人々の役に立つボランティアをしようと考えていたところ、友達のお母さんがこのインターン活動を紹介してくれて、興味を持ったため参加を決めました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

活動を通して、同世代から大人まで様々な世代の方に出会えました。大人の方にお話を聞くと、こういう生き方でもいいんだという発見があり、進路に迷っている私にとって、とてもいい機会でした。自分の中にあった“こういう大人にならなきゃ”という理想像が自分を縛っていたと気づけたので、たくさんの選択肢を持って将来の夢を見つけていきたいです。



印象に残っているエピソード

初めてオンラインイベントを企画、計画、司会、進行を行ったことです。藤沢市長をはじめとする藤沢市役所の職員さんも来ていただき、とても印象に残っています。初めての司会ということと、普段話す機会がない年代の方もいらっしゃる中でイベントを行ったので、とても緊張しましたが思っていたより楽しかったのです。



受入団体：障がいのアナ

担当者：小川 優さん

「違い」の先にある「同じ」を知る。価値観が広がる「気付き」を柔らかく伝えたいと活動をしている団体です。障がいのアナの名前の由来は障がいのある人となない人、さまざまな違いの間にある壁にアナを開けたいという想いが込められています。障がいのアナのHPには、障がいや福祉に関連したさまざまな方へのインタビュー記事やコラムを掲載しています。



活動するたび新たな出会いがあった

さかもと
坂本 みのり

学年：明治学院大学4年生

主な活動：演劇ラボ（横須賀を演劇で描くWS）の主催、横須賀トモダチジャズの企画・運営

インターン活動に参加したきっかけ

最初は「自分の活動をサポートしてくれるよ」と団体の方に紹介して頂き、演劇ラボの活動を始めるにあたり、繋がりを作りたいと思ったからです。また、自ら企画することは初めてで、自分だけで取り組めば視野が狭まっていってしまうと考え、周りの人から色々と吸収し、アイデアを得たい、刺激を受けてやる気を出したいと思い、インターンに参加しました。



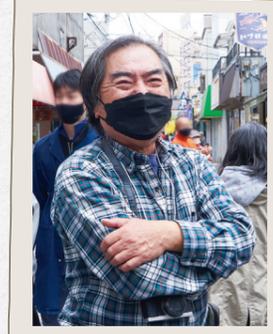
インターンの経験を、今後どう活かしたい？

自分で企画すること、そして活動に参加する際にも何をしたいかという軸をしっかりと保つことの重要性を学び得ました。そして一旦ここで一区切りという気持ちでインターンを始めましたが、たくさんの大人に出会い、今後も自分のやりたいことをやれる範囲で楽しんでいけるのだということ、学び得ることができました。



印象に残っているエピソード

トモダチジャズの1週間前は特に印象に残っています。みんながギリギリまで良いものを作ろう協力しあっている空気感がとても楽しかったです。特に、部活などのように全員が同じ所属というわけではなく、それぞれ仕事や生活のある人がここに集まり、音楽で街を楽しませようという取り組み姿が、とてもワクワクしたものでした。



受入団体：NPO法人横須賀創造空間

担当者：亀崎 昌義さん

横須賀・三浦半島エリア等に「人を呼ぶ」「魅力を発信する」「人々の交流を促す」ために活動する団体です。協働や交流を通じて地域社会の発展に寄与することを目的としています。“場”としてのコワーキングスペース「ヨコスカテラス」（京急汐入駅近く）を活用し、地域内外の様々な関係者と協働した事業を展開しています。

Q. 挑戦したこと

西：インターン活動お疲れさまでしたー！

野・坂：お疲れさまでした！

坂：活動を振り返ってみて、私が印象的だったことは、「やりたいこと」に挑戦できたことです。インターンの場を借りて、もともと自分で活動していた演劇のワークショップを企画・実施することができました。ワークショップの参加者と一緒に試行錯誤しながら劇を作り上げていって、大変なこともありましたけど、最後には性別も境遇もバラバラの参加者たちが、演劇創作の活動を通してとても仲良くなっていました。最後までやりきることができて、本当に良かったです。

お二人は活動を通してどんな事に挑戦しましたか？

西：私は坂本さんと反対で、「こういうことがやりたい！」と決まっていたわけではなくて、自分がこれまでやったことのないことをやってみたいと思ってインターンに参加しました。そういう意味ではやりたかったことに挑戦できたかなと思います。例えば、地域の人がやっているイベントを手伝ったり、大学の講義に参加したり、イベントを自分

で企画したりもしました。ラジオに出演したこともありました。いろいろな挑戦をさせてくれた秦野さん(受入担当者)には本当に感謝しています。

野：自分も新しいことに挑戦することができました。団体のホームページに載せるコラム記事を書いたり、オンラインイベントを企画して実施したりしました。定例会でも、普段の生活ではあまりできない農作業を体験したりしましたね。

Q. 参加してよかったこと

野：他にもインターンに参加してよかったと思ったことはありましたか？

西：はい！私はやっぱり、色々な方と出会えて、話をする機会があったことですね。インターン活動に関するアドバイスや、役に立つ知識を得ることができただけでなく、私生活やこれからの人生において参考になるお話をたくさん聞くことができました。それから、活動を通して仲良くなった方や、協力してくださる方がたくさんいてくれて、とても恵まれた環境だったと思っています。

野：わかります。自分もインターン活動を通してたくさんの人と出会えました。世界活動見本市というイベントの出店のお手伝いをしたときに、たくさんのお客さんや他の団体の方が興味を持ってきて、たくさん話しかけてくれました。交流する中で今まで自分が知らなかったことなど、いろいろな発見がありました。

坂：出会って本当に大切だと思います。この活動をしていなかったら会うことも、一緒に協力して活動することもなかったわけで。演劇の最後の振り返りの時に自分の悩みや辛かったことを話してくださった参加者がいて、私が始めたワークショップが誰かの心のよりどころ的コミュニティにもなることができたのだと気がついて嬉しかったです。

Q. 他のワカモノの印象

坂：出会いといえば、私たちワカモノ同士の出会いもそうですね。学校も学年も違う私たちがこうやって出会って一緒に活動をして。

西：確かにそうですね。思っていた以上にみんなバラバラの活動先で、活動内容も全く違うことをしていたので、誰がどこでどんな活動をしているのかを把握するのに時間がかかりましたが、定例会や成果発表会の準備を通して仲良くなって、発表会中にも距離が縮まって、絆が深まっていった気がします。

野：そうですね、年代が近いこともあって、話し合いがとても楽しかったです。定例会の時に、坂本さんの発表がとても上手で、スライドの作り方がわかりやすいと思いました。成果発表会でも台本を見ずに自身の活動について順を追って説明していて、流石だなと思っていました。西口さんも180時間くらい活動していると聞いてびっくりしました。忙しい中、たくさん時間をインターンに費やしていて、それから副リーダーとして成果発表会の指揮も上手にとっていて、自分も見習いたいなと思います。

坂：ありがとうございます。他のワカモノの活動がお手本になったり、刺激になることって確かにありますよね。



西口 芽吹

認定 NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎



野元 小暖

障がいのアナ



坂本 みのり

NPO 法人横須賀創造空間

クロストーク 1



新たな仲間や世界と 出会えた

くわばら かな
桑原 果那

学年：湘南一ツ星高等学院1年生

主な活動：農作業、創作活動（ボタニカルアートなど）のサポートなど

インターン活動に参加したきっかけ

中学生のときに学校に行けなかった時期があり、人と関わることに苦手意識がありました。高校生になってから、「少しでも今の自分から変わりたい」「やりたいことを決めるためにもっと様々な経験をして視野を広げたい」と思っている時に、学校でこのプログラムについての説明会があり、話を聞いたところ、自分にピッタリだと思ったことがキッカケです。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

メンバーそれぞれが周りを見て助け合いながら活動していたのが印象的でした。私も、周りを見て困っている人には手を差し伸べることが当たり前できるようにしていきたいです。また、将来なりたい姿を目指して、やりたいと思ったら、立ち止まらずにどんどん挑戦していけるよう、ここで学んだ「行動することの大切さ」を活かしていきたいです。

印象に残っているエピソード

稲刈りのときに、田んぼでカエルをたくさん捕まえたことです。普段の生活で自然と触れ合う機会はないので貴重な経験ができて楽しかったです。また、その場で初めて会ったメンバーと一緒にカエルを捕まえたことで、仲が深まったのが印象的です。活動の中では、初めての友だちと遊ぶときと同じような新鮮な楽しい気持ちを感じました。



受入団体：NPO 法人 **さんわーく かぐや**

担当者：藤田 靖正さん

創作活動と農作業を中心に、障がいの有無や年齢や状況も様々な生きづらさを抱えた方が、共に助け合い元気になる場を目指して福祉活動を行なっています。大地の芸術祭や音楽水車プロジェクトなど大掛かりなアート制作協力から、小さな施設のイベントのお手伝い、地元農家さんの援農や、地域の子どもたちへの農作業体験の機会提供など、活動は多岐にわたります。



地域の人々と関わり 成長できた

おおたに せいしろう
大谷 清心郎

学年：藤沢翔陵高等学校1年生

主な活動：書類作成、イベント用の企画書や報告書の作成、イベントの当日スタッフ

インターン活動に参加したきっかけ

昨年度まで兄が参加していたため、このインターン活動のことは知っていたものの、まさか自分がやるとは思っていなかったタイミングで母から勧められました。勧められた時、学校の活動以外にも地域のための活動や、人々との繋がりを持ってみたいと思っていたので、なかなかないチャンスだと思い、参加を決めました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

これから先、様々な年代の方々と話す機会がたくさんあると思うので、コミュニケーションを円滑に取れるように、活動で得た対人スキルを活かしていきたいです。発表の際も、聞き手の立場に立った資料の準備や話し方を学んだので、それらを心がけていきたいと思っています。何より苦戦したスケジュール管理の経験は、進学しても就職しても、活かせると思います。



印象に残っているエピソード

Cafe KO-BA で開催された「田園長後の朝市」で、暑い夏の朝から、マルシェに参加する出店者の皆さんと一緒に準備をし、地域に暮らすたくさんの方々が訪れてくださったこと。この日は、知っている人が誰もいないところに飛び込んでの活動だったのでとても不安で緊張しましたが、いざ始まると楽しく、あっという間に終わっていました。



受入団体：認定 NPO 法人 **藤沢市民活動推進機構**

担当者：細矢 岳彦さん

私たちは「NPO（非営利組織）を支援する NPO」として、NPO 活動を支援し、藤沢の市民活動を盛り上げるための活動をしています！また、まちづくりには、NPO だけでなく様々な組織が連携することが大事です。推進機構では NPO・行政・企業・学校等との連携を進めるために、まちの活性化事業も行っています。





将来の自分を想像 できるようになった

なかむら るり
中村 瑠璃

学年：湘南一ツ星高等学院1年生

主な活動：コンサートの企画運営及び当日スタッフ、イラスト制作、会議の書記

インターン活動に参加したきっかけ

元々、大学生になったらインターン活動をしてみたいと思っていました。学生として様々な経験はしたけれど、社会で働く大人達の中に入って何かをしたことはなかったの、学生のうちに経験しておきたいと考えていたからです。そんな中、私の学校でこのプログラムの説明会があり、折角ならやってみようと思い参加しました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

これから、高校生活、大学生活、そして社会人と、あらゆる経験をしていくのだろうと思いますが、新天地へ踏み込む時や学生という枠から飛び出る時に、このインターンで学んだこと、自分にできたことを思い出して、今この場で自分ができることは何か、自分がやりたいことは何かを探し、不安に負けずにしていきたいです。



印象に残っているエピソード

クリスマスコンサートで行う紙芝居に使用するイラストを描いたときです。フルカラーのイラストを十枚以上描きあげるのは今までの人生で初めてだったので、イラストについても、そして仕事についても多くのことを学ぶことができました。思い出してみると、かなり大変でもありましたが、とても楽しく有意義な時間として印象に残っています。



受入団体：おととき♪

担当者：佐久間 恭子さん

地域と音大生（卒業生も含む）をつなぐことを通じて、地域で音大生や若手演奏家が活躍する社会を目指しています。具体的には、自主公演の企画運営、学童や保育園などでの訪問演奏、地域イベントへの参加などを行っています。イベントの実施に合わせ、集まれるメンバーが協力して行っています。藤沢を中心に各地で活動中です。



仲間と協力した経験を 社会で活かしたい

おぬま あやね
小沼 彩音

学年：石川学園横浜デザイン学院高等課程2年生

主な活動：竹の伐採作業（自然公園の整備）

インターン活動に参加したきっかけ

進路に悩んでいた時、母とサボメン(酒井さん)の方からこのインターン活動を紹介してもらい、とりあえず何か新しいことをしてみようと思い参加しました。自分の視野を広げることで、これから先の進学・就職などでいいことがあるかなと思っています。また、習い事を終えて時間に余裕があったため参加できました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

成果発表会に向けて、ワカモノや事務局のみなさんと協力して行ったという経験を、これから先社会に出た時に活かされたいと思っています。そして、藤沢サンクチュアリで学んだ、高橋さんの私たちボランティアの人に対する配慮や優しさを、今後、仕事などで関わった人たちへの関わり方に活かしていけたらと思います。



印象に残っているエピソード

活動初日に、竹の伐採をするために竹藪に行ったら、私の嫌いな虫TOP3に入る蚊が大量にいたことです。常に視覚と聴覚に蚊を感じていました。ただ、意外なことに3箇所しか刺してこない弱い蚊たちだったので助かりました。刺された後に痒くなるのが、私が蚊を嫌っている理由だったので、活動2回目以降は蚊が大量にいても平気でした。



受入団体：NPO法人藤沢サンクチュアリ

担当者：高橋 和也さん

遠藤地区（健康の森）を中心とした藤沢市内の緑地で、ササ狩りや竹の伐採、危険木の処理を行って、子どもたちが自由に遊べる里山・虫取りや魚取りが自由にできる里山を目指して保全活動を行っています。自然の中での遊びを通じて、大人と子どもが交流する藤沢の谷戸で、未来の子どもたちに自然を残す活動をしています。



Q. 団体での活動初日の印象は？

小：インターン活動お疲れさまでした！さっそくですが、活動初日を振り返って皆さんが活動した団体はどんな印象でしたか？

桑：私の活動先の団体では、皆さんののびのびと活動している様子が印象的でした。それぞれが強制されることなく、自由でありながらメンバー同士協力し合っていて、本当に楽しそうに活動されていました。

小：私の活動先は、年配の方が多い団体だったんですけど、皆さんとてもいきいきと活動されていて、元気な団体！という印象でした。

中：お二人と違って、私の活動していた団体はたくさんのメンバーと一緒に同じ作業をするということはなかったのですが、最初に受入担当者の佐久間さんとお話をしたときに街の人たちのことを大切に思っていることがわかって、団体も団体の活動も素敵だと感じたことを覚えています。

大：自分の活動先もいい人たちで、話しやすい雰囲気でしたよ。

Q. 活動中に大変だったこと

大：たくさん活動をしたいという気持ちはあったのですが、自分の学校は土曜日にも授業があって、部活が基本毎日あったので学業とインターン活動の両立など、スケジュール管理で苦戦しました。みんなは活動中に大変だったことはありませんでしたか？

桑：私はメンバーとのコミュニケーションですね。普段あまり接することがない年上の方が多くて、同級生と話すのと違って話題を広げにくかったです。また、話好きなメンバーがずっと自分に話しかけてくれることもあって、最初はどの接したらいいかわからず大変でした。

中：私も、コミュニケーションで大変なことがありました。イベントに参加したときに、慣れない作業や苦手の接客をして、貧血になってしまっ。。その時は大変でしたが、やり遂げた時は自分に少し自信ができました。

桑：インターンに参加しなかったらこれからも接する機会があるかわからなかったのが、大変だったけどいい経験でしたね。

中：そうですね！

小：私は作業の内容が大変でした。竹や木を運んだりする作業は特に。活動が終わって家に帰った後は疲れて昼寝してしまうくらい（笑）

Q. 活動を通して成長できたところ

小：大変なこともありましたが、自分の成長につながったと感じることもありましたよね。皆さんはどうですか？

大：ありますね、これまでは決められたスケジュールで（学校や部活など）活動していることが多かったんですけど、インターンを通して自分で予定を立てられるようになったと思います。

全員：『お～（拍手）』

桑：私は行動力の面での成長を感じます。もともと、失敗することが怖くて自分から積極的に活動することが少なくて、でもインターンに参加して様々な経験をして、新しい世界に行くのが好きになりました。自分がやりたいと思ったことはたとえ失敗してもいいからやってみよう！と思え

るようになって、インターン以外でもこれまで行かなかったたくさんの場所に行くようになりました。

中：それって、自分に自信がついたってことにもつながると思います。私も活動を始めたばかりの頃は、イラストを描く以外のことで自分に何ができるのかわからなくて、でもインターンで今まであまりやってこなかった様々な経験をして、今は「自分にはこんなこともできたんだ！」と自信を持って言えるようになりました。

小：確かに、成長を実感すると自信がつきますよね。団体での活動以外にも、定例会や成果発表会の準備でたくさん会議をしましたよね。何回もするうちに Zoom とか会議の進め方とかがだんだんわかるようになって、これも成長したことだなと思いますよ。

大：そうですね、自分だけじゃなくて他にもインターンをしている仲間がいることで刺激になったので、定例会や成果発表会も含めてインターン活動でした。

 **大谷 清心郎**
認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構

 **桑原 果那**
NPO 法人さんわーくかぐや

 **小沼 彩音**
NPO 法人藤沢サンクチュアリ

 **中村 瑠璃**
おととき♪



 クロストーク 



人に喜んでもらうために活動する楽しさ

ふじた まひと
藤田 真人

学年：角川ドワンゴ学園 N 高等学校 3 年生

主な活動：フットサルスクールでのコーチのサポート、広報用の写真撮影、イベントスタッフ

インターン活動に参加したきっかけ

中学、高校と外に出る機会が少なく、「このまま社会に出て大丈夫なんだろうか」という不安から、インターンやボランティアに参加しようと思ひ、学校で説明を受けたこのインターンに参加しました。継続して活動する中で自分の欠点に気付いたり、人とコミュニケーションを多く取る経験ができることがこの活動に参加しようと思った理由です。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

私はこのインターンの中で多くのことを学ばせていただきました。中でも、「人に喜んでもらうために活動する楽しさ」を知ることができたのは、今後の人生に大きく役に立つものだと思います。これからは「どうしたら喜んでもらえるかな」を意識して、より良い関係の構築や、周囲に自分の感謝を還元する方法の1つとして活用していきます。



印象に残っているエピソード

アズヴェール藤沢スポーツクラブでの活動で、広報用として練習中の生徒さんの写真を撮らせていただきましたが、年齢別のクラスごとに表情の違いがあり、とても興味深く感じました。純粋にボールを追いかけてフットサルを楽しむ幼児クラスから、より上手になりたい、上達したいと練習に励み、真剣な表情で技術を磨く選手クラスまで、このスクールで成長する様子を感じました。



受入団体：NPO 法人 **アズヴェール藤沢スポーツクラブ**

担当者：大澤 英昭さん

藤沢市を拠点に活動する、「フットサル」を中心とした地域密着型スポーツクラブです。青少年の健全育成、地域の方の健康増進、生涯スポーツの普及を目的とした活動を行っています。関東フットサルリーグに参戦している TOP チームを中心に、子どもから大人まで 270 名ほどの方が所属し、フットサルを楽しんでいるアットホームな雰囲気の団体です。



苦手なことにも挑戦し自信がついた

もりた みと
森田 美都

学年：高校卒業

主な活動：イベント当日のスタッフ、冊子やチラシのデザインとの交流

インターン活動に参加したきっかけ

高校を卒業して大学に行かず、バイトもしていなかったため、何かしないといけないと思ひ焦っていました。今の自分に出来ることはないか、センターに相談に行ったところ、インターンの存在を知りました。正直自分に出来るのか不安が多くありましたが、万が一続けて通うことが出来なくても、挑戦しないよりしたほうがプラスになると思ひ、勢いで応募しました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

仕事をする中で、自分がどう感じて、どう対応していけばいいのか分かってきました。ストレスを抱え込みすぎると体調に出てしまうので、詰まった時は相談し、無理をしすぎないように頑張ろうと思えました。活動では、今までの自分なら絶対にやろうとしなかったこと（人前で発表、ピラ配りなど）に挑戦し、良い経験になったので、今後も色々なことに挑戦してみたいです。



印象に残っているエピソード

活動が始まってすぐの頃に参加した市民まつりのイベントで、スタッフとしてピラ配りをしたことです。昔から人前が苦手でしたが、こんな機会はもうないかもしれない、やれるだけやってみようと思ひ、すれ違う人に声をかけて配ることが出来ました。スルーされることも何度かありましたが、「ありがとう」と笑って受け取ってくださる方もいて嬉しかったのを覚えています。



受入団体：認定 NPO 法人 **藤沢市民活動推進機構**

担当者：永山 愛さん

私たちは「NPO（非営利組織）を支援する NPO」として、NPO 活動を支援し、藤沢の市民活動を盛り上げるための活動をしています！また、まちづくりには、NPO だけでなく様々な組織が連携することが大事です。推進機構では NPO・行政・企業・学校等との連携を進めるために、まちの活性化事業も行っていきます。



将来の夢に関わる経験とやりがいを得られた

やくら そう
矢倉 壮

学年：湘南学園高等学校2年生

主な活動：園の清掃、保育、幼児教育に関する学習

インターン活動に参加したきっかけ

保育、幼児教育に興味があり、大学では教育、保育の知識を学び、将来的にも保育、幼児教育の職業に就きたいと思っている中、学校でこのプログラムのチラシを見つけました。過去の活動報告書に保育も活動先にあったことから、将来に向けて知識や経験を大学で学ぶより早く実践的な経験をすることができると思い、本プログラムに参加しました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

保育で得た知識や紙芝居を作る経験や掃除の経験は、そのまま大学での学びや実習、そして今度は自分が実際に保育士、幼稚園教諭となり実践して行く際に活かしていきたいです。成果発表会のMTGでの書記や企画書作成の技術、他校の人と何か一つのことを進める経験は、社会へ出たあと、何か活動を行なっていく際に活かしていきたいと思っています。



印象に残っているエピソード

最初は園の子どもたちに距離を取られていたのですが、名前を聞かれるなど、徐々に子どもたちからの質問が増えていき、名前を呼んでくれるようになりました。距離が近くなっていくのが感じられて、保育士の喜びややりがいの様なものを少しだけ感じることができたのかなと思い、子どもたちと信頼関係を築けたと実感できた瞬間はとても印象に残っています。



受入団体：NPO 法人**幼児武道教育振興会**

担当者：島田 博之さん

「親子のふれあいを大切に」をモットーに、保育園の運営をしています。子どもたちの健全育成に貢献し、また、多様化する社会情勢において、子育てと仕事、家庭を両立することに困難や不安を抱えているママやパパを支援する為、セミナーや相談会、子ども食堂の運営等を行っています。



新たな自分の一面を発見できた

まえじま ほのか
前島 歩花

学年：湘南一ツ星高等学院2年生

主な活動：講習会当日のお手伝い、資格取得、事務作業、ポスター制作

インターン活動に参加したきっかけ

学校で行われていたインターン説明会に参加し、興味を持ちました。今年度の私の目標は様々な経験をする事だったので、インターン活動にも参加してみようと思いました。また、説明会での話の中で、自分の苦手な活動が含まれていたため参加するか迷いましたが、苦手克服のチャンスだと思い参加を決めました。



インターンの経験を、今後どう活かしたい？

人と関わり、自分の考えを伝える機会を積極的に増やしていこうと思います。活動を通して、苦手意識のあった「自分の考えを伝えること」は苦手ではなかったと気が付きました。自分の思っていないことを綺麗事として話したり、うまくまとめられていないことを話すことはすごく抵抗があるということも同時に分かり、自分の考えを自分の言葉で誤解がないように伝えていきたいと思いました。



印象に残っているエピソード

応急手当普及員の資格を取得したことです。当初予定していた資格取得日程に体調不良で参加できず、インターン活動期間のギリギリで取得しました。資格を活用した活動をする予定でしたが、できなくなってしまい、焦りや不安が募りました。しかし資格がなくても自分ができることはなんだろうかと考え行動できたので、成長のきっかけになりました。



受入団体：NPO 法人**ふじさわ救命普及推進会**

担当者：鈴木 洋子さん

「命のリレーをつなぐ」を大切に、活動しています。藤沢市内で行われる救命講習会に会員を派遣し、心肺蘇生法の指導を通して、応急手当での普及活動を行っています。その他にも救護ボランティアとして市民マラソンに参加したり、各地域の防災訓練等に参加して、早期の一時救命措置の大切さを伝えています。



Q.楽しかったこと、良かったこと

矢：僕は、活動先の子ども達と遊びたいから早く掃除を終わらせるよう急がしてきたり、満を持して遊んだ時の子ども達の楽しそうな顔を見れたことは良かったなと思います。

皆さんはどうでしたか？

前：私は救命講習会の見学と事務作業です。講習会は何度も見学させていただき、毎回知識が深まりました。事務作業では作業しながらも活動の方向性や団体の思いについて話し合ったり、時には他愛のない話をして笑い合ったりと、落ち着いて話せる機会があったことで、団体の方との信頼関係が築けたと思います。

森：私も人との関わりが多くあったのが楽しかったです。活動先で仕事中に雑談や何気ないことで声をかけてもらえたり、差し入れをいただくこともありました。

藤：私は活動中に撮影を行うことがあって、カメラを真面目に扱うのは初めてだったので、生徒さんの表情が良く写る構図や、マニュアル設定について自分で調べて実践することがとても楽しかったです。今後の趣味としても続けられる良い経験になりました！

また、団体の活動以外にもイベントの当日スタッフとして、普段行くことの無かった地域のイベントに参加することで、

自分の知らない藤沢の食べ物やお店など、地元を知るいい機会になりました。地域を盛り上げるためにはこのようなイベントはうってつけで、ぜひより多くの人にきて欲しい、より地元を知って普段の生活をもっと楽しくして欲しい！と思いました。

Q.ワカモノメンバーのイメージは？

矢：この場にはいないメンバーも含め全員に思い入れがありますが、前島さんは真面目で要領の良い人という印象があります。発表会準備で、急ぎで受付リストを作成することになり、かなり無茶ぶりの作成依頼だったにも関わらず、事務局や僕に聞いて最後まで自力で作り上げていました。活動先でも、受講している方の年齢に合わせた指導していたという話からも前島さんの対応力や要領の良さを感じます。前島さんのような要領がよく真面目でオールラウンダーな人がいてくれたおかげで、何か問題が発生した時の余裕にもつながり安心して発表会準備に取り組み、本番も大きな問題なく行えたのだと思います。

前：嬉しいです！私から見ると矢倉さんは色々な仕事を引き受けて率先してやっているなと感じました。将来をしっかりと見据えて今やるべきことをやっているように思います。

森：私も矢倉さんに同じ印象を受けました。矢倉さんは保

育園に通っている子の名前を覚えたりとコミュニケーションをとられていたり、今後活かそうとインター先を選ばれていて、将来を考えられていて凄いです。

矢：ありがとうございます！森田さんはインター先での活動の話の中で、VOLUNTEERS（ボランティア情報誌）の表紙を作ったと聞いて、どの部分を作ったのかと思ったら表紙全てと聞いてデザインセンスがすごい！という印象を持っています。

また、人前に立つのが得意ではないと言っていましたが、今回のインターンシッププログラムに参加したり活動先でイベントの受付をしたりと、苦手なことを苦手なままにせず、少しずつ克服しようと挑戦してかっこいいです！成果発表会でも、チラシ、ポスター作成など、発表会実施に向けてなくてはならない存在でした。

藤：僕も、森田さんは発表会のパンフレットやチラシの作成で本当に素晴らしいクオリティのものを作られていたので、すごいセンスを持っていると感じていました。

森：そう言っただけだと嬉しいですよ。

矢：藤田さんは、メンバーの中で一番話やすく、よく頼りにしていたので「頼りになる先輩！」という印象です。本人は自分のことを異常に過小評価していますけど、とて

もすごい人だと思っています。活動先の話聞いていても一つひとつの作業にとっても気を使っている人だなという印象です。言動や態度が大人で、発表の時の言葉遣いや話の感情の入れ方など、たくさん学ばせてもらいました。また、何か物を作る、進める際に妥協をしたくない人なんだろうとも思いました。最後の動画作りや広報の作成などインターン先で試行錯誤し、磨いてきたカメラやチラシ作りの技術を使って、より良いものに仕上げてくださいと思います。そういった職人気質な人が妥協せず一緒に作り上げてくれたおかげで良い発表会が完成したんだと僕は思いますよ。

藤：ありがとうございます！男性のインターン生が少なかったので矢倉くんとは一緒にゲームで遊んだり、かなり仲良くさせていただきました。学校の授業や部活動で忙しい中、インターン活動に発表会の準備など、活動と自分の夢に向かい頑張る姿はすごいとしか言いようがなく、これからも頑張りたいと応援しています！！

矢：皆さんからそう言っただけだと照れますね（笑）活動を通して、私達10期生メンバーのバランスの良さがとても印象的で、全員が頑張り支え合った結果良い発表会ができたんだと思います！

前：本当に、皆さんのそれぞれの力が合わさって作り上げた成果発表会でしたね。

★ 前島 歩花

NPO 法人ふじさわ救命普及推進会

★ 藤田 真人

NPO 法人アズヴェール藤沢スポーツクラブ

★ 森田 美都

認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構

★ 矢倉 壮

NPO 法人幼児武道教育振興会

クロストークヨ

1年の流れ

活動期間中は受入団体での活動に加え、ワカモノ間のつながり強化や活動に役立つ知識づくりなどを目的にイベントを開催しました。対面でのイベントが復活し、お互いのことを知る機会が増え、それぞれが「やりたいこと」のアイデアを出し合う姿が印象的でした。

6月 面談

ワカモノと事務局とで個別面談を行いました。ワカモノの興味関心や将来の夢などをヒアリングした上で、1人ひとりに合った活動先を決めていきます。

7月 オリエンテーション



ワカモノ、サポートメンバー、事務局、受入団体が集まり、初の顔合わせを行いました。自己紹介や、ビンゴ、今後の活動の目標設定ワークなどを行いました。

8月 第1回定例会



10期生のワカモノ、お互いを知ろう！の会でした。自己紹介やゲーム、ワークを通じて仲を深めていきました。

9月 第2回定例会



(認N) 自立生活サポートセンター・もやいさんが運営するもやい畑にお邪魔して、もやい畑で行う自立支援とは？についてお話を伺い、ワカモノみんなで野菜などの収穫を体験しました！

10月 第3回定例会



プログラムの折り返しということで中間発表会を行いました。後半は2月予定の成果発表会について話し合いました。

11月 第4回定例会



自分たちの成果発表会はどんなものになりたいかを話し合いました。サポメンからこれまでの成果発表会の様子を聞いたりしながら、アイデアを出しました。

12月 第5回定例会



これまでのインターン活動の振り返りとして、「ラジオの公開収録」風に発表してもらいました。ワカモノが活動を通して感じたこと・考えたことをエピソードを交えながら聞くことができました。

1月 第6回定例会



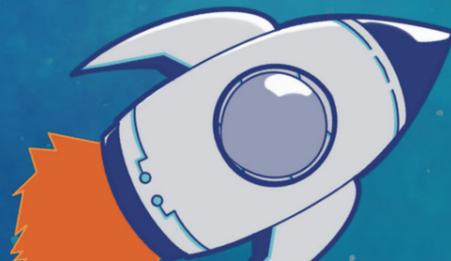
最後の定例会では表彰式を行い、他のワカモノやサポメンが考えた「○○賞」を授与しました。この半年間、共にインターン活動に取り組んだ仲間だからこそ、お互いの良いところや強みを伝えることができました。

2月 成果発表会



成果発表会は、受入団体の方々や先生方、ワカモノの保護者の方などの関係者に「感謝を伝える」をテーマに実施しました。発表会に向けた準備のため、ワカモノみんなで役割分担をし、オンラインや対面で自主的に集まり企画、発表方法から当日運営まで綿密に計画したり、広報用のチラシ作りや、会場のセッティング、飾り付けにいたるまで、ワカモノによって1から作り上げられました。

今回初となる各ブースでの発表方法で実施し、今年度のワカモノの色が出た唯一無二の成果発表会となりました。当日は多くの方にご来場いただき、ワカモノたちの集大成を届けることが出来ました。



アンケート結果

プログラムの改善とワカモノの成長を確認するため、活動終了後にワカモノ（11名）と受入団体（10団体）それぞれにアンケートを実施しました。活動に参加したワカモノと活動団体の声をご覧ください。※回収率 100%。全体数は、ワカモノが n=11、受入団体が n=10。

//Q1. 約7か月間活動して、あなたが気付いた「社会課題」や「地域課題」はどんなことですか？

まだまだ、**障害のある人への偏見があったり孤立している現状**があると感じました。普段友達と話すのと同じように身構えず接すれば良いということを知ってほしいです。

そばで倒れた人がいた時に**救命処置ができる人がまだまだ少ない**こと。講習をもっと身近に、定期的に受けるようになればと思う。

まちのイベントで、同世代を見かけなかったので私たちが**地域に関心を持つことが必要**だと思った。

地元のイベントによる地域活性化の重要性を感じました。イベントにたくさんの方が来て、地域の魅力的なお店を見つけて、今度はそのお店へ行くようになるサイクルが生まれれば、地域の活性化につながると思います。

//Q2. 目標達成率

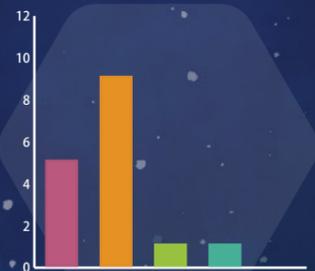
91.36%

- ★ 自分の興味関心があることや、将来進みたい**進路の方向性**もわかった！
- ★ 貴重な経験が出来て、新しい仲間と出会い**見える世界が広がりました**。
- ★ **仕事をするってどういう事なのか**、そして、自分に**何が出来るのか**を学べた。
- ★ イベントのその場限りでなく、その後の活動でも**つながり続ける**ことができた。

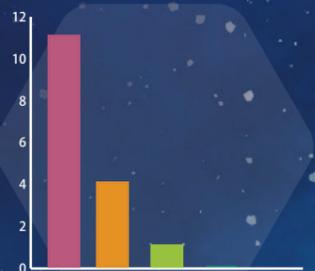
//Q3. インターン終了時の考え方について

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ まったく思わない

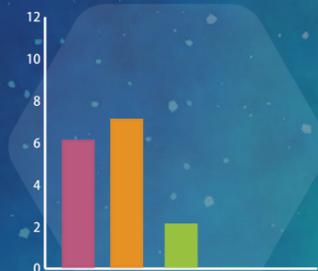
「NPO」「市民活動」について自分の言葉で説明できる



今後、ボランティアなどの社会貢献に参加したい



インターン活動を通して自分自身が目指す理想像に近づいた



//Q4. 本プログラムを他のワカモノに勧めたい？

※強く勧めたい（5人） 勧めたい（6人）

団体の1人として責任を持って活動できる人に**強く勧めたい**。

時間との兼ね合いは必要だが、自分自身を**振り返る機会**を得られるし、周りとのつながりから視野を広げることができます。

参加する前と比べて色々な面で変化を感じています。また、年齢も地域もバラバラな**沢山の仲間と出会う機会**になって参加してとても良かったです。

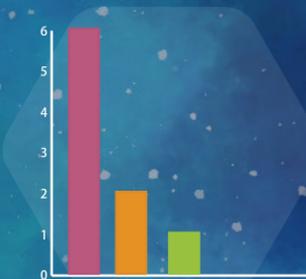
//Q5. 受入担当から見て、活動を通じてワカモノにどのような変化がありましたか？

- ★ 対人コミュニケーションに自信を持ったことで、始めと比べると**主体性を身につけ行動的**になったと感じる。
- ★ 活動開始当初は自分の可能性に制限をかけて、自信がないように見えた。得意分野をはじめ、初めて経験することにも多く取り組むうちに、**新しいことに挑戦することを楽しむようになった**。
- ★ どのようにしたら伝わるか、どのようにしたら効果的かということを考えられるようになっていきます。活動開始当初は、積極的であることが印象的でしたが、活動後半では、積極性だけでなく、どのようにしたらより良くなるかということを考えて、工夫していることなどをたくさん質問してくれました。**受け身ではない主体性が強くなったと感じます**。
- ★ 人前で話すことが苦手といていた彼女でしたが、成果発表会で活動してきたことや自分の意見をまとめて、堂々と発表していた。色々とした質問にもしっかりと対応できた。**人前でも自分の意見を言える自信**が活動を通じて少しでもついたなら、受け入れた甲斐がありました。

//Q6. 受入担当から見て、ワカモノは団体についてどのくらい理解したと思いますか？

■ 理解した ■ まあ理解した ■ どちらともいえない ■ あまり理解していない ■ 理解していない

団体の活動内容



団体の取り組む課題



団体が目指す社会



//Q7. 受入を通して、団体組織内にどのような変化がありましたか？

- ★ **組織が明るくなった**。
- ★ 手が回っていない部分に手が届いて、活動をスムーズに進めることができた。また、**演出の幅が広がった**。
- ★ 高校生の視点が入ることで、**より視野を広げた取材**等を行うことができました。
- ★ 初めて高校生を受け入れました。ワカモノと180時間以上（30回程度）活動を共にしたことで、**大切な仲間の1人**と実感するとともに、**高校生の存在を身近に感じられる**ようになりました。
- ★ **ワカモノを育てる、見守る**という意識が会員の中に広がった。

OBOG アンケート

今年度で10年目を迎え、プログラムに参加したワカモノは130名を超えました。今回、ワカモノ OBOG にアンケート調査を実施しました。その結果と、2名のインタビューをまとめました。ぜひ本プログラムに参加する際に、参考にしてください。(n=20)

//Q1. 現在の職業は？



//Q2. インターン活動が役に立ったこと

- ★ 幅広い世代の方とコミュニケーションが取れるようになった。
- ★ このインターン活動が一足早く社会と繋がるきっかけになりました。
- ★ 基本的な連絡の仕方から始まり、書類の作成やイベントの作り方など、インターンで学んだことを大学の活動に活かすことが出来た。
- ★ 就活の自己PRで話すことが出来た。

//Q3. 現在に至るまでに、地域やNPOに関わることがありましたか？

※75%が『はい』と回答

- ★ インターン時の活動先にちょこちょこ顔を出している。
- ★ このプログラム以外でNGOのインターンシップにも参加した。友人とグループを作ってイベントに参加したり、チャリティーイベントを行ったり。現在でもボランティア等に参加させてもらっている。
- ★ 大学のゼミで地域活性化について学んだ。
- ★ たまにイベントのボランティアスタッフをしている。
- ★ 本プログラムのサポートメンバーとして関わりを持っている。

//Q4. 未来のワカモノへ一言！

- ★ 本気で取り組むと、大人もそれに応えてくれると思います。一生懸命活動に向き合って、たくさん考えて行動して、多くのことを学び取ってください！
- ★ このインターンを見つけた君、ラッキーだよ！失敗を恐れずに好きなことをたくさんやってください。
- ★ 自分はこのインターンを通して変わったと思います。自分を変えたい人はぜひ挑戦してみてください。
- ★ まだ気付いていない自分の長所をきっと伸ばせます！
- ★ 人との繋がりや経験は絶対にこれから役立ちます！



OBOGインタビュー

簗田 萌

ワカモノ 2 期生
現職：会社員



鹿又 鹿寿起

ワカモノ 6 期生
現職：大学生



インターンに参加した当時、国際協力について学べる学部で学びながら、学生団体で活動していました。一般企業で働くイメージが持てず、迷っている所でこのプログラムに出会いました。インターン活動では、苦手であった Excel 作業に挑戦しながら、受入団体が運営する施設に出入りしている様々な団体やサポーターさんと交流しました。そこで、様々な働き方や活動をしているたくさんの大人がいることを知り、視野が広がりました。

大学卒業後は、青年海外協力隊に参加をして、子どもたちにバドミントンを教える活動をしていました。2年という短い期間の中で現地のバドミントン選手を育てるにはどうしたらよいか、考えながら過ごしました。

協力隊が終わった後に現職である有限会社ネパリ・バザールに所属をして、女性の社会進出、フェアトレード、国際協力活動をしています。仕事は忙しいですがやりがいをもって活動しています！

インターンで初めてゼロからホームページを作りました。「こんな世界があるのか」と新鮮な気持ちで取り組んでいました。

当時コロナ禍でできることも少なく、バイトか学校かという生活の中で、大学で実施されたこのプログラムの説明会に参加しました。気が付いたら申込をして、ゼロからホームページをつくることになり、インターン後は休学してプログラミングの勉強をしていました(笑)。「これでよかったのか?!」と思うこともありましたが、迷いなく進み続けることができています。

また、インターン時に関わった方々との交流でコミュニケーションの捉え方が変わったかな…。周りに注意をして話を聞くことの大切さに気付けたと思います。

就活では、ES も不自由なくかけて、面接でも堂々と話せました。次の4月、IT系の企業に就職します。社会人一年生。頑張ります!!



2024年2月12日ちょっと寒い月曜日の午後、「規格外」と大きく書かれた垂れ幕のかかっているフジサワ名店ビル6階で、2023年度実施した「ワカモノ × NPO インターンシッププログラム」の成果発表会が、開催された。本年度は、ワカモノ発案によるブースの中での同時発表方式となり、過去の会とは雰囲気異なり、かなり和気あいあいとした発表が繰り広げられた。高校1年生から大学4年生まで11名のワカモノのそれぞれの個別の発表は、話す側と聞く側の距離がとても近く、質問もとても多く楽しそうに見えていた。

本年度のテーマは「STEP TO THE FUTURE」。未来への第一歩という意味なのでしょうか。各ブースで成果発表をしているワカモノが皆、自分の未来への扉の前に立っているように見えていた。今回参加していたワカモノが生まれた2000年頃までは、世の中に模範となる生き方という道がたくさんひかれていた。そのレールに乗ることで、自己肯定感が生まれ、安心安全な日常生活を送ろうとする、また、送ることをお勧めする時代だったように思う。21世紀に入って20余年が過ぎた今、あらゆる多様性を受け止め、受け入れ、更に発信していくことが求められる時代に入ってきている。生きる喜びをどこに感じるのか、やる気のスイッチはどこにあるのか、探してしまうと見つからないのかもしれない。本プログラムは、そんなワカモノを自分の未来への扉の前まで案内することを第一の目標に設定している。

自分自身の好きや嫌い、じっくりいくことといたかないこと、楽しいことと楽しめないことなど、生き方や物事の評価ポイントは、正しいことかどうか、から変化してきている。私の仕事柄、生き難さを感じている市民と接することも多く、その生き難さの根っこを探ることも多い。自分自身の特性から解きほぐすと、比較的気持ちが楽になる傾向にあるように思う。社会へ飛び出すワカモノのあふれる笑顔の前で、私自身の17歳の時点での想いを語ることができたのも、多様性のなせる業ではないかと思うと、社会の変化は楽しみにあふれていると表現しても過言ではない。

「学ぶ」→「動く」→「気づく」→「学ぶ」…のサイクルは、20世紀までは人生設計の大きな輪として考えられていたが、21世紀では小さく何度も回っていく成長につなげていくようなイメージになっている。未来に続く扉の向こうへははたたく11名のワカモノに託す未来はどのように変化していくのかとても楽しみだ。

本年度も関係者の皆様の多大なるご尽力をもちましてプログラムを無事終了することができました。末筆ではございますが、深くお礼申し上げますとともに、飛び立ったワカモノの今後につきましてもお気にかけていただき、加えて本プログラムへのご協力も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ご協力、ご参画誠にありがとうございました。



認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構
理事長

手塚 明美 Akemi Teduka



ワカモノから未来のワカモノへ寄せ書きメッセージを書いてもらいました！

自分の可能性を広げたい、新たな挑戦をしてみたいと思う方はぜひこのプログラムに参加してみませんか？

色々な経験が出来る良い機会になると思います！
森田

挑戦したいことには積極的に行動するのが大事！
西口

学外で、大人と関わることは良い経験になるので、勇気を出して参加してほしいです！
矢倉

新しい仲間とも出会えてとても楽しいです！迷ったらぜひやってみてください！
桑原

やってみたら分かったことがいっぱいあります！ぜひ挑戦してください！
藤田

経験や出会いは大切な財産になります。色々なことに挑戦してみてください！
前島

たくさんの経験ができて本当に良かったです！興味ある方はぜひ！！
野元

やりたい事をやってみる！最初の一步を踏み出せば、多くの出会いと学びが待っているはず！
坂本

絶対に自分の力になるので、どうか負けずに頑張ってください。応援しています！
中村

ワカモノインターン色々新しい経験ができて楽しかったです！！
小沼

最初は何もわからなくても大丈夫！大人と話するのは緊張するけど、勇気を持って飛び込んでください！
大谷

協力者一覧

助成	公益財団法人アイネット地域振興財団 / 大阪コミュニティ財団 / 匿名基金 NO.22										
協力	藤沢市市民活動推進センター・市民活動プラザむつあい										
受入団体	<table border="0"> <tr> <td>NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎</td> <td>障がいのアナ</td> </tr> <tr> <td>NPO 法人 横須賀創造空間</td> <td>NPO 法人 さんわーくかぐや</td> </tr> <tr> <td>認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構</td> <td>おととき♪</td> </tr> <tr> <td>NPO 法人 藤沢サンクチュアリ</td> <td>NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ</td> </tr> <tr> <td>NPO 法人 幼児武道教育振興会</td> <td>NPO 法人 ふじさわ救命普及推進会</td> </tr> </table>	NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎	障がいのアナ	NPO 法人 横須賀創造空間	NPO 法人 さんわーくかぐや	認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構	おととき♪	NPO 法人 藤沢サンクチュアリ	NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ	NPO 法人 幼児武道教育振興会	NPO 法人 ふじさわ救命普及推進会
NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎	障がいのアナ										
NPO 法人 横須賀創造空間	NPO 法人 さんわーくかぐや										
認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構	おととき♪										
NPO 法人 藤沢サンクチュアリ	NPO 法人 アズヴェール藤沢スポーツクラブ										
NPO 法人 幼児武道教育振興会	NPO 法人 ふじさわ救命普及推進会										
広報協力	神奈川大学 山岡 義卓先生 / 私立大学 柴田 匡啓先生 / 慶應義塾大学 櫻田 周三先生 / 湘南一ツ星高等学院 新田 里奈先生 / 湘南学園中学校・高等学校 吉川 謙太郎先生 / 東海大学 前田 成東先生										

地域でつながるワカモノ × NPO インターンシッププログラム 2023 活動報告書

発行： 2024年5月
 編集責任： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 理事長 手塚 明美
 事業担当： 永山 愛 / 佐久間 恭子 / 桜井 光
 制作協力： 金子 知史 (写真選定) / 神藤 夏美 (原稿執筆) / 山本 千晴 (デザイン・原稿執筆) / 中村 渚 (デザイン・原稿執筆) / 酒井 彩良 (デザイン・原稿執筆) / 小島 奈々 (取材・デザイン) / 相原 美月 (デザイン・取材・写真選定) / 大谷 脩太郎 (表紙デザイン) / 森田 哲平 (デザイン) / 森田 美都 (イラスト・デザイン) / 細川 菜由 (企画補助)
 発行所： 認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構 〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
 電話：0466-53-7366 ホームページ：<https://f-npocafe.or.jp> メール：npoipg@f-npon.jp

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。商業目的による本書情報の利用を禁じます。